

プログラムの成果

「子供の森」計画

「子供の森」計画とは？

☞ 財団法人オイスカは、植林活動と共に、実際に現場の海で暮らす子供たちに環境の大切さを教育する活動 ☞ [「子供の森」計画](#) を1991年からスタートしました。

「現場とかけ離れた地域に住む人よりも、現場(海)に住む子供たちこそ、マングローブの大切さを教えるべきなのです。なぜなら漁獲量など直接的に自身の生活に関わってくるからです。森の大切さを理解すればそれを自分たちで守ることを継承してくれるのです。」(オイスカ・スタッフ春日智美さん)

右の図は、子供たちにマングローブ植林について教育するために「子供の森」計画で作成された、オイスカ・タイのスタッフ手作りのワークブック一部抜粋です。これは英語版ですが、現地の子供たちはタイ語版のワークブックで勉強しています。

教育用 ワークブック



☞ [クリックで拡大](#)

📺 [動画はこちら\(学校訪問の様子,2分19秒\)](#)

※動画をご覧になるには、☞ [最新のWindows Media® Player](#) が必要です。

今年もChildren's Forest Program(CFP)対象学校を訪問

今年も昨年に引き続き「子供の森」計画実施校である、ハブサイダム学校を訪問しました。船で40分ほどの島にある小中学校です、学校の目の前の浜に上陸すると、生徒たちが冷たい水を用意してくれました。子供たちのかわいらしい歓迎のダンスに迎えられ、中村隊長が(日本IBM・黒田電気・メクテックタイを代表して)各種ボール(バスケット、バレー、セパタクロー)をプレゼントしました。



童心にかえって子供たちと遊ぶ

一通りの説明が終わると、子供たちにせかさされるようにボール遊びや、鬼ごっこが始まりました。電気コテで木版に絵を描くことに挑戦する隊員も……。子供たちがマングローブの木で作ったキーホルダーは1個30パーツでお土産として買うことができ、売り上げはマングローブの森を育てるために使われます。



「キーホルダーの作品を真似してみました。マングローブに見えるかな？」(宮地さん)



「私は買って帰ったキーホルダーを、部屋照明のスイッチ紐につけ、これを見るたびに無駄な電気を使わないようにと心がけています。」(小倉)

ラーコクラッ(さよなら)

楽しい時間はあっという間に過ぎ去っていきました。帰る時間が来ると、子供たちは隊員たちと手をつないで栈橋まで見送ってくれました。そして私たちは名残惜しみながら学校を後にしました。学校の先生から、メイテック・タイ、IBM、黒田電気それぞれに、電気コテで木版にマングローブ林を描いた、すばらしい絵のプレゼントがありました。



「あまりのかわいさに、このまま連れて帰りたという衝動に駆られました。」
(中村隊長)